

(仮称)佐倉西部自然公園

第3回ふるさと会・里山会合同会議 会議概要

1. 名称 (仮称)佐倉西部自然公園 第3回ふるさと会・里山会合同会議
2. 日時 平成23年1月20日 18:00~
3. 場所 佐倉市役所 社会福祉センター3階 大会議室
4. 参加者 ふるさと会13名・里山会10名、市関係者12名、傍聴者18名
5. 内容

合同会議・ふるさと会、里山会経過報告

整備基本計画では、公園区域を4つのゾーンに分けています。県水道路、東邦大学、佐倉西高校に近接した部分がAゾーンとなります。畔田谷津の上下流部分がBゾーン、畔田地区に一番近い部分がCゾーンとなります。一番奥はDゾーンとなります。

ふるさと会・里山会イメージ図につきましては、ふるさと会については、6回の会議を開き、里山会は、10回の会議を重ね、イメージ的な図を作成しました。こちらのイメージ図面は、佐倉市のホームページ等でも閲覧できる状態になっています。

合同会議の経過でございますが、第1回は、昨年8/1下志津ふるさと会館におきまして、両会18名の参加を頂きました。整備計画の概要説明、両会の会議状況等を報告しました。第2回は、昨年11/21同じくふるさと会館で、市民の傍聴者6人を含め25人、ゾーンの状況及び緊急雇用創出事業の進捗状況等を説明すると共に両会の意見・要望等を協議いたしました。

今回、第3回の合同会議は、基本的なこの公園の計画・整備のあり方について、以前から講演を開催してはどうかと両協議会から要望をいただいております。第2回合同会議において、公園整備の基本となる整備基本計画の「理念」を中心に検討会の会長を務めて頂いた原教授に講演を依頼することになりました。この公園の進む方向性をふるさと会・里山会両会で確認する意味で、原教授に相談したところ、喜んでお引き受けて下さいまして、今回の講演をお願いすることになった次第でございます。

講演「私たちがつくる21世紀の里山自然公園」

講師：東京情報大学教授 原 慶太郎 氏

質疑応答(里山：畔田 里山会、ふる：下志津 ふるさと会、公園：公園緑地課)

公園：ありがとうございました。改めて、この地域の里山・谷津、自然等の素晴らしさを実感されたのではないかと思います。せっかく講演いただきましたので、質問を受け付けたいと思います。ふるさと会・里山会の皆さま、ご質問はございますか。

里山：野球場の脇で農業をやっています。公園を作って次世代にふるさとを継承していくということですけども、今、地区の状態は、消防団の存続すら大変な時代で、若い人が皆、出て行ってしまっています。そういう若い人がもう一度部落に戻ってくるような良い方法はありますか。

講師：例えば、農業を実際にやられている方の農作物に付加価値をつけること、うまく知恵を出して人がつながることで、値段は高くとも顧客がいれば農業が成り立つという方法も考えられます。専門外ですので詳しくは申し上げられませんが、消費者に安心安全な食を届けるような形態や環境保全活動に対して、今までと違った形の補助金等の施策が行われること、もしくは、農林業が良い形で営まれていけば、それが一番良いことですので、地域でグループを作り、地区外の方から応援してもらう方法。佐倉市には17万人の市民がいるわけですから、そういった応援団を作る工夫を、これからしていくのが良いのではないのでしょうか。

里山：補助金の話が出てきましたが、今まで里山会として市からは一銭もいただいていません。その点について、市はどのようにお考えでしょうか。

公園：今までは行政主導が主な形態でした。これからは、その使い道を皆さんと話し合っていかなければならない時代になっていると思います。現在、補助の事業を行っておりますが、下志津・畔田の皆さんには、緑地管理という部分でお願いしております。皆さんの活動に対しては、ほんの一部ですが、私どもが行える部分かと思っております。これがどのような形で広がっていくのか、これからも皆さんと協議していきたいと思っております。

ふる：行政の方に伺います。緊急雇用で、下志津畔田の散策路をきれいにさせていただいております。これは何年位まで続くのでしょうか。あれだけの範囲を、継続して下志津畔田の地域の者だけで管理するのは、とてもできませんので、伺いたいと思っております。

公園：緊急雇用事業として補助金を受けることができるのは、来年度までです。竹刈などを行い、ある程度の下地は出来ました。これからは、下志津・畔田の皆さんに維持管理していただくなか、周りの皆さんにどれだけ協力していただけるかが大切となります。一つの例ではありますが、行政では、竹の子を売って収益を上げるといったことは難しい部分があります。皆さんが楽しみ、この場を活用しながら広げていただければいいような方向に持って行きたいと思っております。無償のボランティアではなく、活動することによって収益を上げるような付加価値のある形にしなければ、きれいな公園にすることは難しいのではないかと思います。現段階では、行政の言葉というよりは、一緒に公園を作ろうとしていく部分での発言として捉えていただければと思います。

ふる：原先生に伺います。ふるさと会の組織についてです。先ほど、若い人たちに - 後継者につないでいくということを伺いました。ふるさと会は、子ども会、そのお父さん方で作っている一誠会、その親になる育和会、高齢者クラブ、さらに食生活推進で構成しています。高齢者が80歳ちょっと、子ども会のお母さん方も子ども連れで参加してくれています。先日ですが、雪の降った16日、公園内Aゾーン内に百合の球根を三千株ほど植えました。とても寒い中、区長や役員をはじめ、50人ほどが参加してくれました。今後も、こういう形で進めていこうかと考えていますが、その他に、もっと良い方法があればお聞かせください。

講師：下志津地区で子どもたちを含めて、そのような取り組みをされていることに対し、敬意を表したいと思います。その地区でうまく回る仕組みが出来ないことには、協力を得ることは難しいのではないかと思います。特に子どもが入ると、若いお父さんやお母さんが入ってくるようです。そうすると、じいちゃんやばあちゃんも・・・、といった人のつながりを作っていただければと思います。この先のことですが、これから公園全体の計画策定・協議会で議論されていく中で、お話をされたような良い案や、その他の良い方法も出てくるかと思っております。お答えになるか分かりませんが、ぜひ、議論を重ねていただければと思います。

次回の合同会議開催

今後は、地区隣接の東邦大学病院や佐倉西高校、王子台小学校などの代表者に参加いただいて合同会を開催し、徐々に市民が大勢参加できるような仕組みを考えていきたいと思っております。次回の合同会については、議題及び日程を含め、両会長と協議のうえ、HP等で傍聴して頂いている方など、市民の方へ周知したいと考えます。

本日、講演いただいた原教授に、改めて御礼申し上げます。「私たちがつくる21世紀の里山自然公園」の理念を基に、下志津・畔田の環境を守りながら、公園整備に努めて参りたいと思っております。

(連絡事項)

本日、市の広報が取材に入っています。2/11~2/17「チャンネルさくら」で放映予定です。14時~、22時~1日2回放映されますので、ご覧いただければと思います。

緊急雇用創出事業で伐採した竹材を使って竹炭を作りました。ご自由にお持ち帰りください。それでは、第3回ふるさと会・里山会合同会議を終了します。どうもありがとうございました。

以上